



環境活動レポート

2012年度

2012年 5月 1日～2013年 4月30日



For the beauty of the earth
For a dynamic and attractive society



日本化学機械製造株式会社

発行 2013年 6月 27日 (環境月間)

目次

	ページ
目次	1
環境方針	2
組織の概要	3
事業概要・製品における環境配慮の促進	3 , 4
1. 主な環境負荷の実績	5 , 6 , 7 , 8
2. 環境目標及びその実績	9 , 10
3. 環境活動の評価	11 , 12 , 13 , 14
4. 活動事例 トピックス	15 , 16
5. 代表者の見直し	17
6. 環境関連法規制等の順守状況	17



2013年4月 本社新社屋を『津波避難ビル』に登録しました

環境方針

私たち一人ひとは、社是に徹し当社の基本理念である
美しい地球 生き活きとした社会のために
経営方針の下、ここに環境方針を定め、行動することを宣言します。

社是 『誠心誠意』 『感謝の奉仕』

基本理念

*For the beauty of the earth
For a dynamic and attractive society*

美しい地球 生き活きとした社会
それらが調和し持続し発展するために
役立つ 技術 と 人材 を提供します



環境方針

全ての人々が健康に生き活きと生きる事ができる社会は、豊かな自然と健全な環境の上に成り立っています。

地球環境が保全され、限り有る資源と多様性に富む生物を将来に引き継いでいける持続可能な社会を構築するために、環境について考え、行動することは、21世紀を生きる人類のそして経済社会を営む企業の責務であると強く認識します。

私たち日本化学機械製造株式会社は、事業活動における環境負荷の低減を図るために、次の行動指針に定める環境保全活動を推進します。

〈環境保全への行動指針〉

1. 以下について、環境目標・活動計画を定めて、継続的な改善に努めます。
 - (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量削減
 - (2) 節水推進
 - (3) 廃棄物排出抑制、リサイクルと適正処理の推進
 - (4) 環境に有害な化学物質使用量の削減と管理の推進
 - (5) 製品における環境配慮の促進
 - (6) グリーン購入の促進
2. 環境関連法規や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを活動レポートとして公表します。

制定日 2007年 12月 10日

見直日 2012年 5月 1日

日本化学機械製造株式会社

代表取締役社長

高橋 正一

組織の概要

事業者名

日本化学機械製造株式会社

代表取締役社長 高橋 正一
 全社環境管理責任者 取締役製造部長 宇山 正彦
 全社環境事務局 海外プロジェクト推進室 中嶋 幹恵
 技術部 海瀬 卓也
 技術部 大橋 雅昭
 品質保証室 安藝 成伸
 製造部 福本 学
 製造部 新井 裕史
 南山田工場環境事務局 井上 幾雄
 泉 諭



サイトの概要

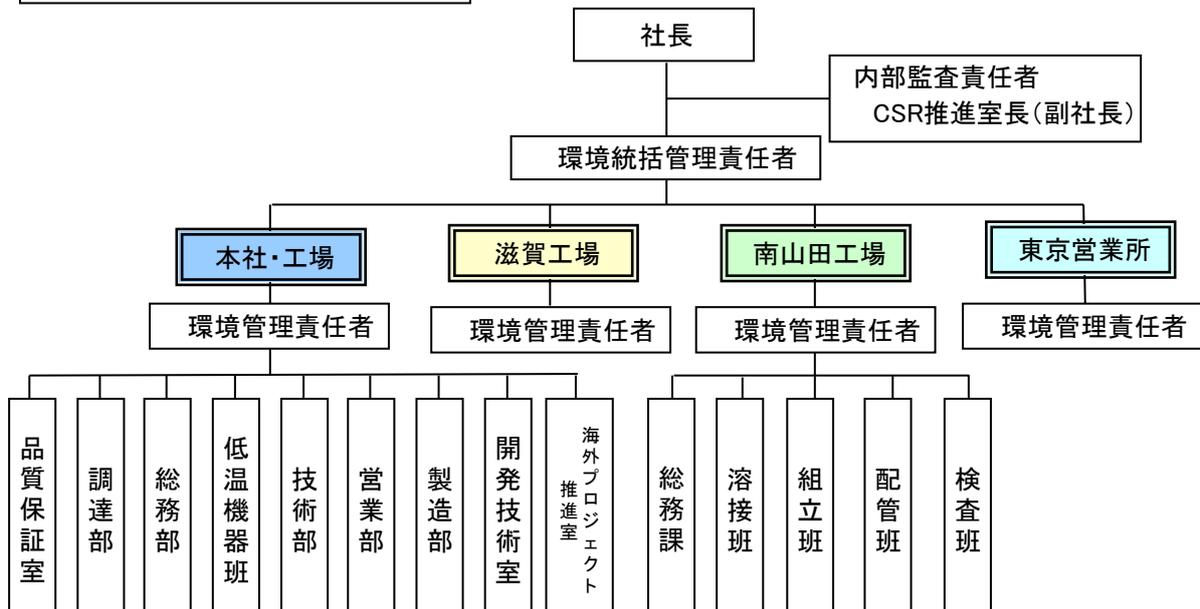
サイト	本社・工場	滋賀工場	南山田工場	東京営業所
環境管理責任者	取締役製造部長 宇山 正彦	取締役製造部長 宇山 正彦	工場統括 浅野 宣男	所長 神尾 昌人
TEL	06-6308-3881	0748-75-2131	0748-72-3007	03-3567-8101
従業員数	162名	0名	29名	6名
敷地面積	21,685㎡	27,229㎡	3,727㎡	
工場床面積	6,478㎡	5,024㎡	1,901㎡	
事務所等床面積	2,294㎡	0㎡	214㎡	賃貸事務所

組織所在地

- 本社・工場 大阪府大阪市淀川区加島4丁目6番23号
- 滋賀工場 滋賀県湖南市大池町7番地1
- 南山田工場 滋賀県湖南市岩根字南山田1622番5
- 東京営業所 東京都中央区京橋1丁目6番12号（京橋イーサビル5階）

エコアクション21認証・登録番号：0002822
 適用ガイドライン：エコアクション21ガイドライン2009年版
 対象事業所：本社・工場、東京営業所、滋賀工場、南山田工場（全組織）
 事業内容：化学機械・化学装置・燃焼装置・超低温液化ガス機器の設計・製作・販売
 更新・登録日：2012年8月25日
 活動期間：2012年5月～2013年4月

環境経営システム組織



事業概要

当社はアルコール蒸留装置の設計・製作を創業の原点として70年以上に亘り操業を続けており、その間、化学・食品・医薬工業界様向けにも、広く化学機械や化学プラントをご提供しています。最近では、70年の歴史によって培った設計・製造技術と豊富な経験を駆使して、バイオエタノール製造プラントや太陽光発電に供される原料製造プラントの建設などにも携わりました。また、当社独自の蒸留技術を活かした廃溶剤回収プラント、環境負荷物質の回収装置、脱臭設備などもご下命頂いており、これらの製品を通じて社会の環境改善にも貢献しております。

事業の規模 および 2012年度事業活動実績

- 1) 創業 1939年
- 2) 資本金 2億7千5百万円
- 3) 売上高の推移

2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
61.3億円	88.9億円	82.7億円	69.1億円	64.4億円	39.4億円

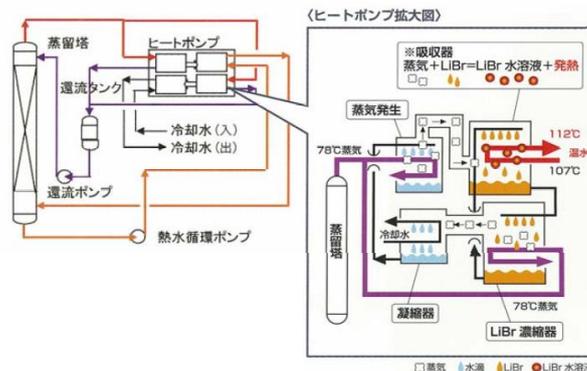


製品における環境配慮の促進

最新の技術の開発、活用に努めています [本社 技術部]

プラントは様々な装置、工作物、その他機器類の組み合わせで構成されており、エンジニアリングには多くの知識と経験が必要とされます。設計時においては設備の省エネルギー化、騒音や振動に留意した機器の選定など、また、工事、試運転、メンテナンスにおいては火災事故や化学物質の漏えいなどの防止といった観点で環境に配慮すべき事項は非常に多岐にわたります。生産性向上も資源の有効活用といえます。私たちは、常に最新の技術の開発、活用に努めています。

当社のコア技術である蒸留は、多くのエネルギーを消費します。このため、従来より熱回収や水の再利用など様々な省エネを続けてきました。近年では、ヒートポンプの技術を取り入れた省エネを提案しております。



製品の梱包材をリサイクルしやすいものに替える取り組み [南山田工場]

南山田工場では、可搬式の超低温液化ガス容器を製造しています。今まで、納品の際には、プラスチックの梱包材を用いていましたが、再使用の用途が少なく、お客さまにとって産業廃棄物になってしまうため、リサイクルしやすい段ボールでの梱包に替えました。



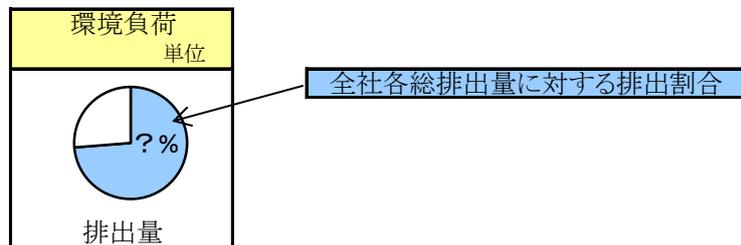
1. 主な環境負荷の実績

2012年5月 ~2013年4月

1-1. 各サイト別環境負荷の実績

当社の各サイトにおける環境負荷の実績及び総排出量に対する各サイトの環境負荷別の排出割合を、【図-1-1】に示します。

【図-1-1の表示内容】



環境負荷 サイト	二酸化炭素 ton	一般廃棄物 ton	産業廃棄物 ton	総排水量 m ³
本社・工場	49% 307.3	74% 2.9	96% 58.6	85% 10,580
南山田工場	36% 208.6	26% 0.9	4% 2.1	8% 1,053
滋賀工場	14% 86.0	0 ※1	0 ※1	6% 779
東京営業所	1% 4.5	3% 0.1	0	0 ※2
全サイト 合計	606.3 ton	3.9 ton	60.7 ton	12,412 m ³

※1 滋賀工場では、生産活動は行っていない。

現在は、南山田工場の 資材等の仮置き及び開発機器等の実験等で一時的に使用しているのみ。

※2 東京営業所は、賃貸事務所の制約から水使用量は把握できない。

【図-1-1 各サイトの環境負荷】

1. 主な環境負荷の実績

2012年5月 ～2013年4月

1-2. 各環境負荷の内訳

(1) 二酸化炭素排出量

各サイトにおけるCO₂の主な排出源を、【表-1-2-1】に示します。
 また、当社の二酸化炭素総排出量の51%を占める本社・工場と、34%を占める南山田工場における排出源の割合を、【図-1-2-1】及び【図-1-2-2】に示します。
 本社・工場では、83%が購入電力、7%が自動車燃料であるガソリン・軽油による排出です。
 南山田工場では、超低温液化ガス容器の製作過程で都市ガスを熱源とする乾燥炉を使用しているため、都市ガスによる排出が63%と多くなっています。

【表-1-2-1】

[単位:ton]

CO ₂ 排出源	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
購入電力 ※1	255	55	86	5	400
ガソリン・軽	22	5	0	0	28
都市ガス	10	131	0	0	142
その他	19	17	0	0	36
合計	307	209	86	5	606

※1 CO₂排出係数: 各サイトとも 0.000378 t-CO₂/kwh

本社・工場におけるCO₂排出源の割合



図-1-2-1

南山田工場におけるCO₂排出源の割合

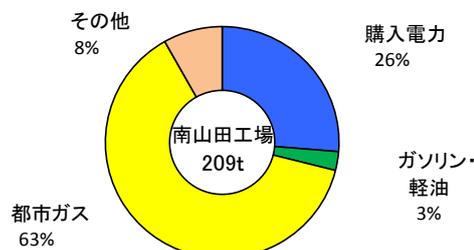


図-1-2-2

(2) 総排水量

各サイトにおける排水区分ごとの実績を、【表-1-2-2】に示します。
 また、総排水量に対する各サイトの排水割合を、【図-1-2-3】及び【図-1-2-4】に示します。
 なお、当社の場合、使用量を排水量としています。

【表-1-2-2】

[単位:m³]

排水の区分	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
上水	6,111	1,053	389	0	7,553
工業用水	4,469	0	390	0	4,859
合計	10,580	1,053	779	0	12,412

※ 東京営業所は、賃貸事務所の制約から水使用量は把握できない。

上水使用量(m³)

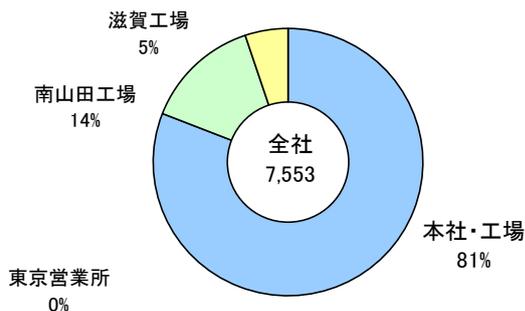


図-1-2-3

工業用水使用量(m³)

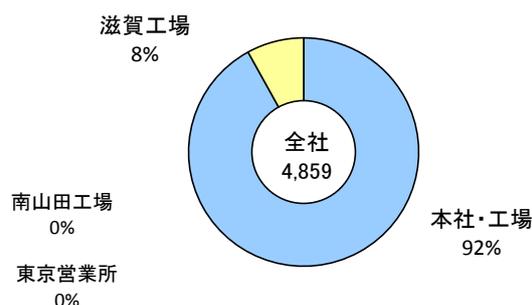


図-1-2-4

1. 主な環境負荷の実績

2012年5月 ～2013年4月

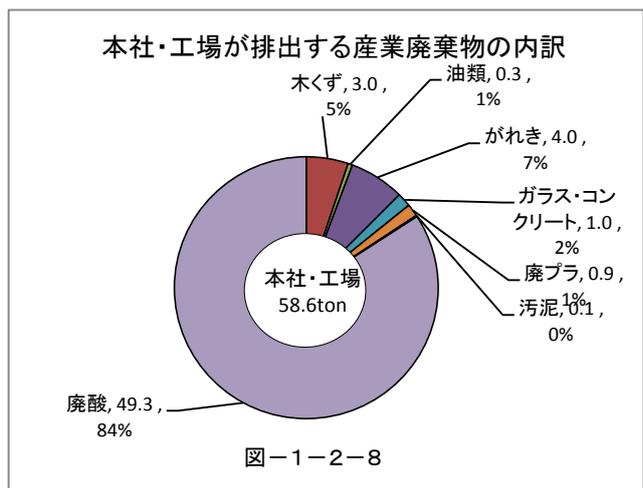
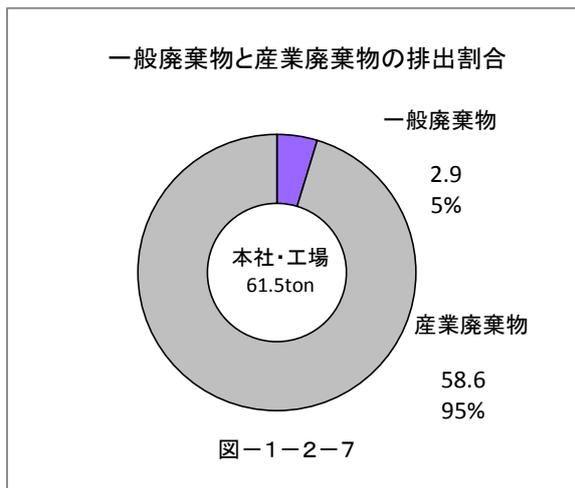
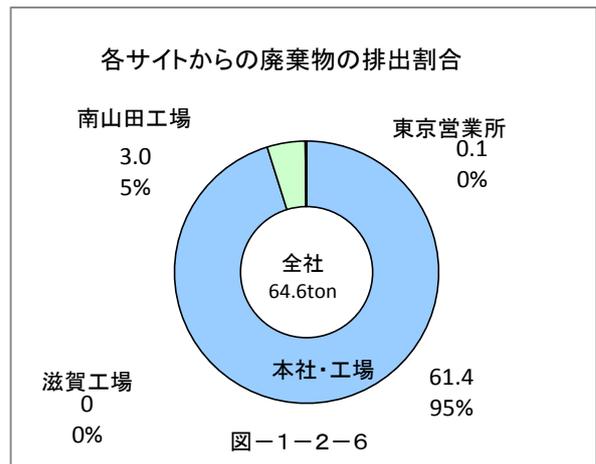
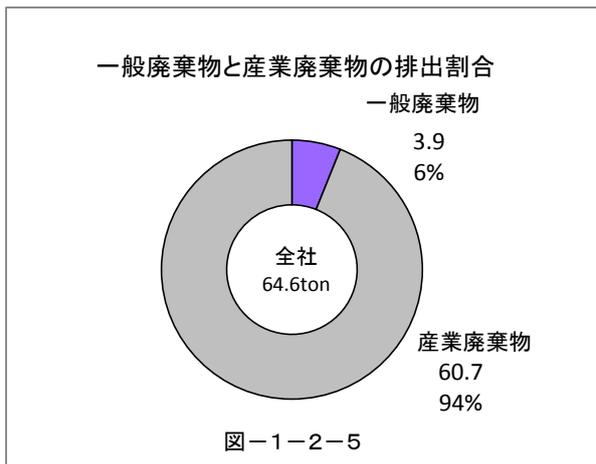
(3) 廃棄物排出量

全社における一般廃棄物と産業廃棄物の排出割合を【図-1-2-5】に、各サイトごとの一般廃棄物と産業廃棄物の合計排出量を【図-1-2-6】に示します。

廃棄物総排出量の約94%は産業廃棄物であり、また、廃棄物総排出量の約95%は本社・工場から排出されています。

本社・工場における一般廃棄物と産業廃棄物の排出割合を【図-1-2-7】に、同じく本社・工場から排出される産業廃棄物の内訳を【図-1-2-8】に示します。

本社・工場から排出される産業廃棄物の84%が廃酸で、本社・工場で作成するステンレス製機器の洗浄工程より洗浄廃液として排出され、その99.8%は水です。

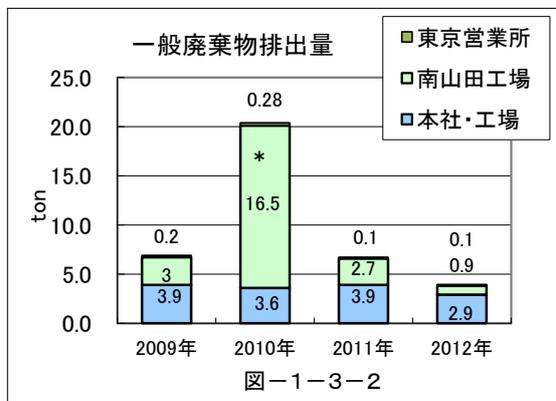
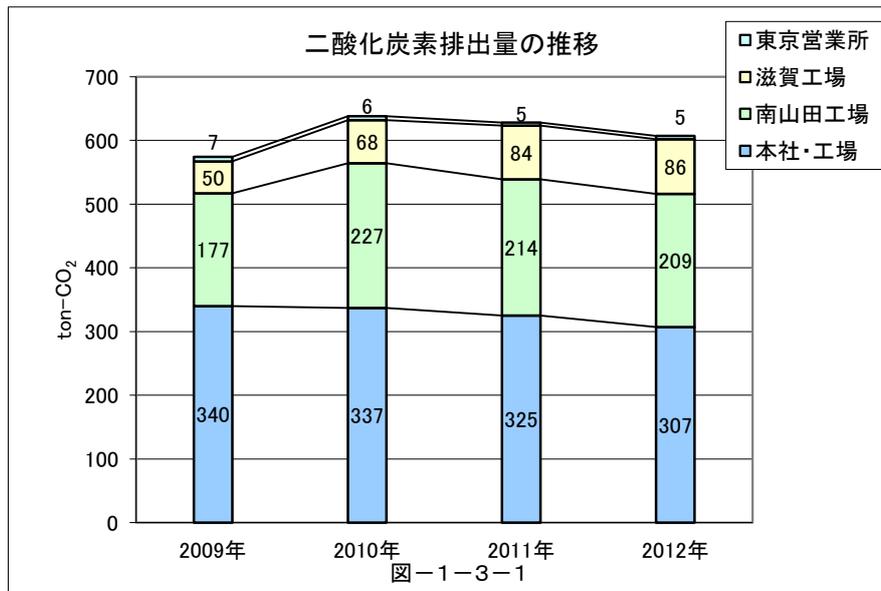


1. 主な環境負荷の実績

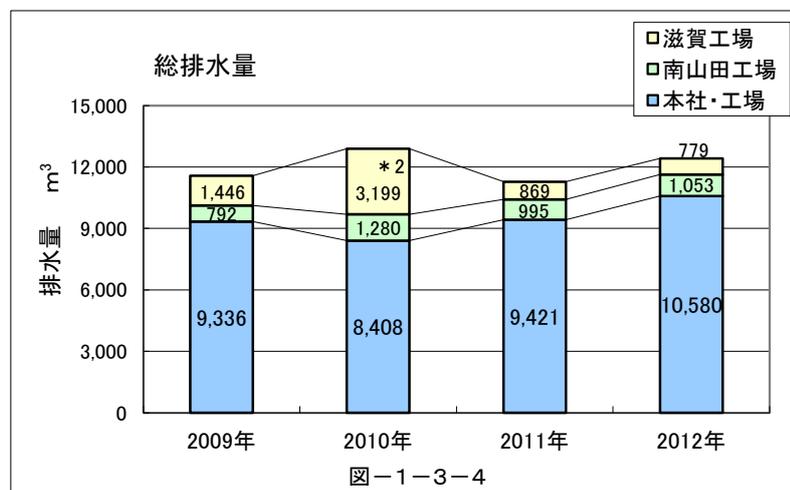
2012年5月 ～2013年4月

1-3. 主な環境負荷の推移

主な環境負荷の直近4年間の推移を、【図-1-3-1】～【図-1-3-4】に示します。



*1: EA21取組みに際し、一斉3Sを実施し遊休品等を一括処分したため急増した。



*2: 滋賀工場の工水配管にトラブルがあり漏えい発生。原因究明し、是正済み

2. 環境目標及びその実績

2-1. 本社・工場

当社では、主な環境負荷の大半を排出する本社・工場を、環境側面における最重要サイトと位置付け、2008年より環境活動に取り組んでいます。

本社・工場では、【表-2-1】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。

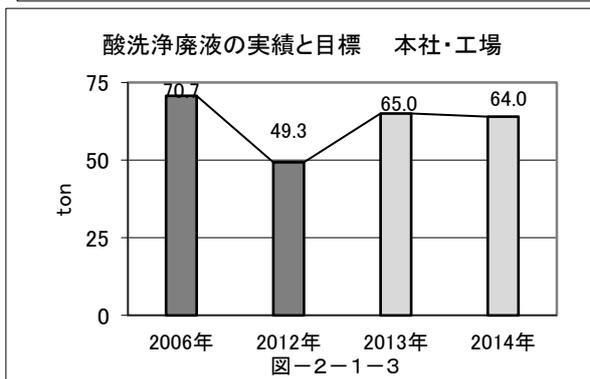
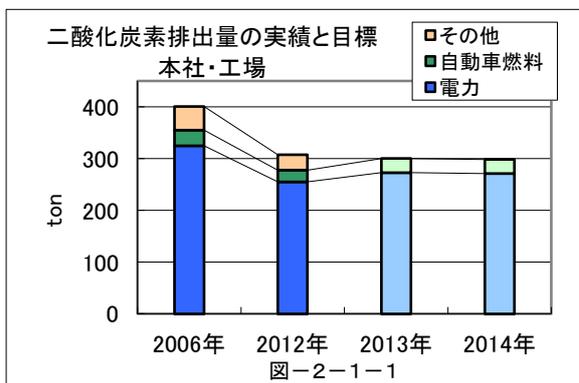
主な環境負荷の基準年度値及び今年度の実績値並びに今後2年間の目標値を【図-2-1-1】～【図-2-1-4】に示します。

【表-2-1】 本社工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2012年 (2012年5月～2013年4月)		2013年	2014年
			目標	実績	目標	目標
CO ₂ 削減 ^{*1} [電力]	ton-CO ₂	(2006年) 325	△15.5%	△21.4%	△16%	△16.5%
CO ₂ 削減 [自動車燃料]	ton-CO ₂	(2006年) 29.9	△7%	△24.8%	△8%	△9%
一般廃棄物削減	kg	(2009年) 3,886	△2%	△25.6%	△3%	△4%
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 5,257	△5%	△4.8%	△6%	△7%
産業廃棄物削減 [廃酸(酸洗浄廃液)]	ton	(2006年) 70.7	△6.6%	△30.3%	△8%	△9%
[廃プラスチック]	kg	(2008年) 968	△24%	△7%	△25%	△26%
節水	m ³	(2007年) 12,545	△26.7%	△16%	△27.3%	△28%
化学物質使用量の削減 ^{*2}	L	(2009年) 240	△13.3%	+7%	△20%	△20%
製品における環境配慮の促進 受注件数	-	(2009年) -	12件	9件	13件	14件
グリーン購入	-	-	2品目増加	ハイブリッド車更新/都度	3品目増加	3品目増加

※1 本社・工場では、総排出量の83%が電力、6%が自動車燃料(ガソリン+軽油)につき、これらについて削減目標を設定しています。

※2 当社には、化学物質を原料とする製品はありません。



2. 環境目標及びその実績

2-2. 南山田工場

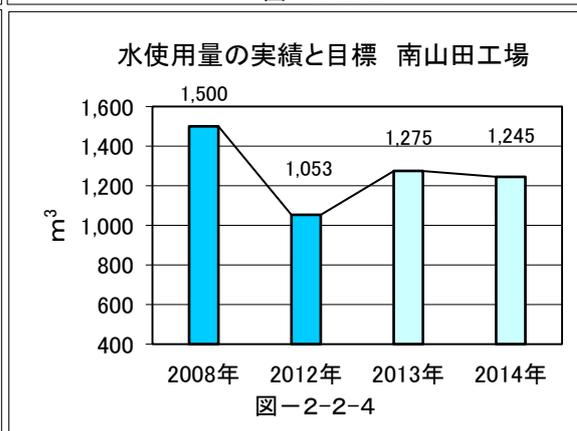
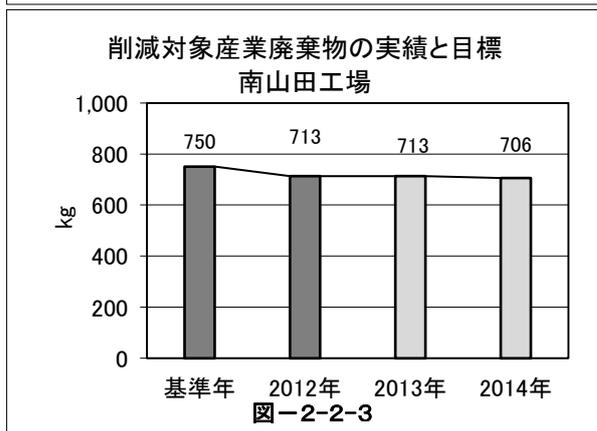
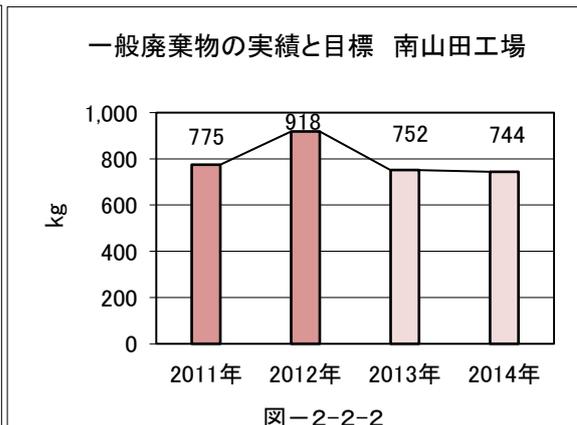
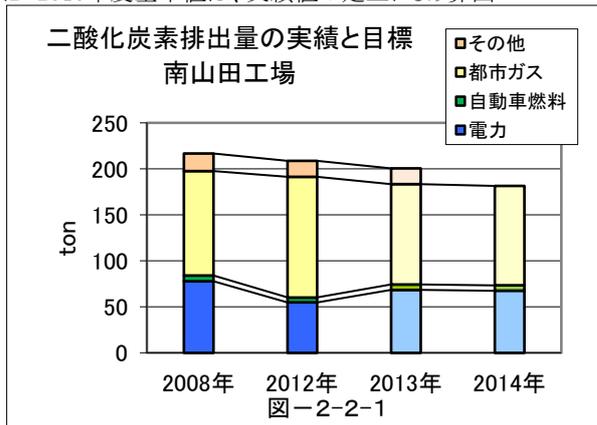
本社・工場に次いで環境負荷の大きい南山田工場では、【表-2-2】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。主な環境負荷の基準年度値及び今年度の実績値並びに今後2年間の目標値を【図-2-2-1】～【図-2-2-4】に示します。

【表-2-2】 南山田工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2012年 (2012年5月～2013年4月)		2013年	2014年
			目標	実績	目標	目標
CO ₂ 削減 [電力]	ton-CO ₂	(2008年) 77.7	△10% 69.9	△29% 54.8	△12% 68.4	△13% 67.6
CO ₂ 削減 [自動車燃料]	ton-CO ₂	(2008年) 6.3	△5% 6.0	△13% 5.5	△6% 5.93	△7% 5.87
CO ₂ 削減 [都市ガス]	ton-CO ₂	(2008年) 113.7	△3% 110.2	+15% 131.2	△4% 109.1	△5% 108.0
一般廃棄物削減	kg	(2011年) 775	△2% 760	+18% 918	△3% 752	△4% 744
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 301	△10% 271	△23% 231	△12% 265	△13% 262
産業廃棄物削減 [廃プラスチック]	kg	(2011年) 48.3	△3% 46.9	+12% 54.0	△4% 46.4	△5% 45.9
[酸洗浄廃液 ^{※1}]	kg	(2011年) 166.3	△2% 163	△3% 160.9	△3% 161	△4% 160
[混合産業廃棄物]	kg	(2010年 ^{※2}) 702	△4% 674	△6% 659.2	△5% 667	△6% 660
節水	m ³	(2008年) 1,500	△10% 1,350	△30% 1,053	△15% 1,275	△17% 1,245
化学物質管理の徹底	表示の徹底 MSDSを活用し化学物質の性質を周知徹底		使用状況と保管のチェック U管洗浄方法の改善			
製品における環境配慮の促進	製品出荷梱包材の配慮 梱包・包装簡素化への取組		梱包材量の見直しの検討			

※1 酸洗浄廃液は社内施設で無害化処理していますので、最終的には汚泥が産業廃棄物となります。

※2 2010年度基準値は、実績値の是正により算出



*削減目標を掲げている産業廃棄物のうち廃プラと混合についてのみ記載しています。

3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-1. 本社・工場

勝率(目標達成率) 0.5 5勝5敗 (10項目中 5項目未達)

主な取組み計画			達成状況		評価(結果と今後の取組み)	
二酸化炭素排出量削減	1	電力の削減	基準値	324.8 ton-CO ₂	目標達成 2007年度に活動開始後、継続して目標を達成しており、今年度も削減目標値を5ポイント上回る成果を上げた。 環境に配慮した新社屋への移動により、空調の効率が高まった事、デマンド監視システムの運用、太陽光発電の増設、工場照明の省エネ化、省エネ機器へ更新などの計画的かつ積極的な設備投資が大きく寄与したと推定。また、社員の節電、省エネへの取組みも継続改善されている。	
		・不要照明の消灯	○	目標値		274.4 ton-CO ₂
		・空調設備の点検	○	削減比		-15.5%
		・デマンド監視システム運用	◎	実績値		255.1 ton-CO ₂
		・待機電力の削減	○	削減比		-21%
		・設備の空運転削減	○	-		-
		・クール/ウォームビズ推進	○	-		-
		・太陽光発電の安定運転	◎	-		-
		・省エネ家電・電気機器への更新	◎	-		-
		・エレベーターの使用を控える(新社屋)	○	-		-
・節電の徹底/新社屋比較	○	-	-			
2	自動車燃料の削減	基準値	29.9 ton-CO ₂	目標達成 電力と同様に、活動開始後から連続して目標を達成している。低燃費車への切替えなど積極的な投資と相まって、社員の日常の取組みと評価。取組み事項は適切であり、今後も目標達成に向けて取組む。		
	・エコドライブ運動展開	◎	目標値		27.8 ton-CO ₂	
	・車両定期点検の実施	◎	削減比		-7%	
	・公共機関の利用促進	○	実績値		22.5 ton-CO ₂	
	・電気自動車の有効活用	◎	削減比		-25%	
	・ハイブリッド車への更新	◎	-		-	
廃棄物排出量削減	1	一般廃棄物の削減とリサイクルの促進	基準値	3,886 kg	目標達成 新社屋への移動時に整理整頓を行っていることから、本年度は大きく目標を達成できた。今後も、リサイクル可能な紙類の分別を徹底する。	
		・分別回収促進 (シール掲示)	○	目標値		3,808 kg
		・消耗品等適正保管・使用の励行	○	削減比		-2%
		・機密文書の再生処理化	○	実績値		2,890
	2	コピー紙の使用量削減	○	削減比	-26%	
			基準値	5,257 kg	目標未達成 コピー紙削減については、0.2ポイント未達となったが、当面今年度の取組みを継続する。	
			○	目標値		4,994 kg
			○	削減比		-5%
	○	実績値	5,006 kg			
	3	廃プラスチック	○	削減比	-4.8%	
			基準値	968 kg	目標未達成 基準値よりも削減できたが、目標値までは至らず。購入品に付随する緩衝材などの排出が多く、これらの対応が一つの課題であるが、目標の設定の適正を含め見直しを図る。	
			△	目標値		736 kg
△			削減比	-24%		
○	実績値	900 kg				
○	削減比	-7%				

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-1. 本社・工場

勝率(目標達成率) 0.5 5勝5敗 (10項目中 5項目未達)

主な取組み計画			達成状況		評価(結果と今後の取組み)
廃棄物排出量削減	4	産業廃棄物の削減とリサイクルの促進 酸洗浄廃液の削減 ・適正使用の励行(過剰使用の抑制) ・酸洗浄対象機器の仕様見直 ・酸洗廃液処理実施 ・廃液再利用法の検討	基準値	70.7 ton	目標達成 受注機器の仕様に依存する度合いが高く、もともとの使用量が例年と比較して少なかったこともあるが、取組み事項の着実な推進と、担当者による処理装置稼働の努力もあり、目標を達成できた。
			目標値	66.0 ton	
			削減比	-7%	
			実績値	49.3 ton	
			削減比	-30%	
				-	
節水	1	水道水・工業用水の削減 ・小まめな節水運動 ・給水設備の保守点検 ・配管の定期監視 ・大量消費用途の改善 ・テスト用水の再利用化計画	基準値	12,545 m ³	目標未達成 総使用(排水)量は、工業用水において製品試験用の用途で増加した分と、一時的な増加があり、今後さらに使用状況の早期把握に努める。
			目標値	9,195 m ³	
			削減比	-26.7%	
			実績値	10,580 m ³	
			削減比	-16%	
化学物質の削減・管理	1	化学物質の削減・管理 ・化学物質管理者会議の設置と運営 ・使用化学物質の把握・記録・管理 ・パトロールの実施 ・排水等の測定・監視 ・漏えい事故時の対策・訓練実施 ・汚染防止のための作業改善 ・リスクアセスメントの実施を全社展開	基準値	240 L	目標未達成 当社は業態上、取扱う化学物質は少ないが、製品製作段階で付着する油脂除去のため使用するシンナーを、削減目標として設定した。この目標は未達であったものの他の取組みは着実に実施でき、成果は得られていると評価する。引き続き管理を行っていく。
			目標値	208 L	
			削減比	-13.3%	
			実績値	256 L	
			増加比	7%	
環境に資する製品	1	製品における環境配慮推進 ・『環境配慮スコープ表』運用継続(設計時、施工時における環境配慮) ・省エネ設計推進 ・発明考案表彰の省エネ設計推奨 ・環境機器の拡販	目標値	12件	目標未達成 当社製品・技術での貢献として、当社の環境関連機器の受注件数を目標に掲げ取り組んでいる。本年度は、目標に至らなかったが、今後も当社製品での社会貢献を目指して推進する。
			実績値	9件	
グリーン購入	1	グリーン購入 ・事務用品のグリーン調達	都度実施		目標達成 グリーン調達は、対応可能な物品から積極的に取り組んでいる。本年度は営業車を低燃費車(ハイブリッド車)に更新した。今後も随時グリーン調達を継続する。
			低燃費車(ハイブリッド車)に更新 宅急便循環袋利用		

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-2. 南山田工場

勝率(目標達成率)0.67 6勝3敗 (9項目中 3項目未達)

主な取組み計画		達成状況		評価(結果と今後の取組み)
二酸化炭素排出量削減	1 電力の削減 ・節電活動展開の徹底 ・待機電力の削減 ・設備の空運転削減	◎	基準値 77.7 ton-CO ₂	目標達成
		○	目標値 69.9 ton-CO ₂	デマンド監視装置を設置し見える化を図った。社員の節電対策及び意識が進み基準年の約30%まで削減を達成できた。次年度も引き続き削減を行う。
		○	削減比 -10%	
		○	実績値 54.8 ton-CO ₂	
		削減比 -29%		
	2 自動車燃料の削減 ・エコドライブ運動の展開 ・乗り合せ運動の展開(人・物) ・車両定期点検の実施	○	基準値 6.3 ton-CO ₂	目標達成
		◎	目標値 6.0 ton-CO ₂	声掛け運動を行い、移動時の乗り合わせを推進したことで、目標比91%を達成する事ができ、取り組みは有効であり、継続する。
		◎	削減比 -5%	
			実績値 5.5 ton-CO ₂	
	削減比 -13%			
3 都市ガスの削減 ・真空乾燥炉稼働燃費向上 (月初工程会議の徹底) ・ガスバーナー保守点検の実施 ・炉熱風出入りダクトデータ収集	△	基準値 113.7 ton-CO ₂	目標未達成	
	○	目標値 110.2 ton-CO ₂	生産量に伴いガス使用量が増加したが、特に冬期の稼働率、燃費向上に努める。	
	△	削減比 -3%		
	○	実績値 131.2 ton-CO ₂		
○	増加比 15%			
廃棄物排出量削減	1 一般廃棄物の削減とリサイクルの促進 ・分別回収の徹底 ・発泡スチロール・プラスチック分別回収徹底 ・リサイクル先の開拓	○	基準値 775 kg	目標未達成
		○	目標値 760 kg	梱包木屑はリサイクル先を開拓し、廃棄物全体としては大きく削減できたが、3S徹底のため目標未達となった。今後仕入れの過剰包装を減らす取り組みを行っていく。
		○	削減比 -2%	
		○	実績値 918 kg	
	○	増加比 18%		
	2 コピー紙の使用量削減 ・社内文書の裏面使用・両面コピーの徹底 ・再生紙利用の促進	◎	基準値 301 kg	目標達成
		○	目標値 271 kg	社員の意識向上により社内使用コピー用紙の裏紙使用が促進され、基準年の23%削減を達成できた。引き続き推進していく。
		○	削減比 -10%	
		○	実績値 231 kg	
	削減比 -23%			
3 廃プラスチック ・分別の徹底 ・リサイクルの徹底	○	基準値 48 kg	目標未達成	
	△	目標値 47 kg	生産増加により材料とともに梱包資材も多くなり目標の達成はできなかったが、分別回収によるリサイクルに努める。	
		削減比 -3%		
		実績値 54 kg		
	増加比 12%			

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

3. 環境活動の結果と評価、次年度の取組

3-2. 南山田工場

勝率(目標達成率)0.67 6勝3敗 (9項目中 3項目未達)

主な取組み計画		達成状況		評価(結果と今後の取組み)	
廃棄物 排出量 削減	4	酸洗浄廃液 ・処理設備の保全・管理 ＊酸洗浄廃液は社内設備で無害化しています	○	基準値 166 kg 目標値 163 kg 削減比 -2% 実績値 161 kg 削減比 -3%	目標達成 酸洗浄廃液は、社内の排水処理設備にて処理後放流し、汚泥が産業廃棄物となる。今年度は目標を達成でき、引き続き取り組みを継続する。
	5	産業廃棄物 ・集積場所の見直し ・分別回収によるリサイクル化促進	○ △ ○ ○	基準値 702 kg 目標値 674 kg 削減比 -4% 実績値 659 kg 削減比 -6%	目標達成 廃油はリサイクル先を開拓でき、廃棄物削減に大きく貢献できた。また、分別も推進されており、現施策を継続する。
節水	1	水道水・工業用水の削減 ・節水運動の呼びかけ ・溶接機冷却水設備の点検	◎ ◎	基準値 1,500 m ³ 目標値 1,350 m ³ 削減比 -10% 実績値 1,053 m ³ 削減比 -30%	目標達成 節水に努め、冬期の凍結による配管割れ防止にも考慮した。節電と同様、基準年の約30%まで削減を達成でき、取り組みは有効であり継続する。

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

3-3. 東京営業所

所員6名の小さな所帯ですが、全サイトにおける環境活動の展開方針に基づき、廃棄物とコピー紙の削減を活動項目に設定して、所員全員で取り組んでいます。今年度の達成状況は2勝0敗です。

3-4. 滋賀工場

常勤者が不在につき、本社・工場の環境管理責任者が、南山田工場の支援を得ながら、環境側面での施設管理等を行なうとともに、スポット的に本工場を使用する者に対して、環境活動についての教育、指導を行なっています。

4. 環境関連活動年表・活動事例トピックス

環境活動の取組みの一例を、写真でご紹介します。
[]: 環境改善設備投資の一例

2006年度 CSR、リスクマネジメント推進体制確立

2007年度 エコアクション21自治体イニシアチブ大阪スクール参加
『環境活動のアイデア募集』全社員にアンケート実施
2008年1月から本格的な環境活動スタート
2008年6月5日 環境活動レポート1号(臨時号)発行



啓発シールの作成・掲示

2008年度

2009年度

2010年度

エコアクション21
認証・登録(本社・工場)

[環境改善設備投資計画等策定]

[工業用水配管全面改修等]

エコアクション21
認証・登録を全サイトに拡大

[社内設置自動販売機台数を削減]



こまめな消灯⇒



二酸化炭素削減



[デマンド監視装置導入]
電力使用の見える化



[受変電設備改修]
トップランナー機器へ



[太陽光発電10KWを設置]



[工場照明を省エネ化]



[環境配慮製品PR]
環境関連展示会出展



エコドライブ



[最新の環境適合フォークリフトに更新]



[低燃費車(ハイブリッド車)導入]



E3給油促進



[低燃費車(電気自動車)導入]

省資源・地域貢献・教育・生物多様化(緑化・保全)



環境教育(社内セミナー開催)



裏紙利用促進



大阪府エコランナー活動に参加



グリーン購入



クリーン大阪(地域清掃)



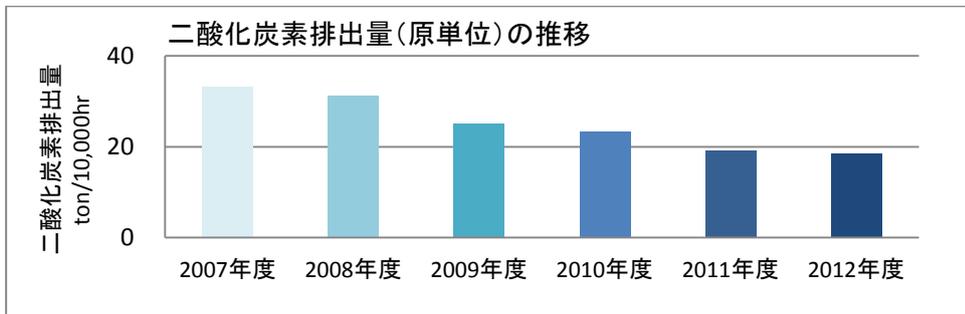
化学物質取組



エコカップ回収参加
ワクチン寄付



南山田工場の地域清掃

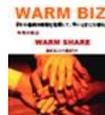


2011年度

2012年度

2013年度

[環境に配慮した新社屋、新食堂棟が完成]



COOL & WARM BIZ 環境活動は日々の積み重ね



環境コミュニケーション大賞

環境活動レポート2011 が
環境活動レポート部門 優秀賞を受賞



授賞式

津波避難ビルに登録した新社屋



[新社屋屋上に太陽光発電23KW増設] [受変電設備改修]



[人感センサー付照明の採用]



[照明スイッチの細分化]



環境事務局員が分担して社内報に
環境関連記事を投稿しています。
2013年4月に65号となりました。



デマンド監視装置更新



[プロジェクタ常設で紙資料削減]



[低燃費車に切り替え]



緊急事態 全社防災避難訓練の実施
AEDを常設しています



[廃棄物置き場の整備]



[緑地面積660㎡拡大]
食堂棟の屋上緑化



緑化ボランティア
6年前のスクラップ置場が花壇に



温暖化防止に植えたサツマイモを子供たちと収穫



本社・工場
クリーンUP作戦(大阪マラソン地域清掃)



5. 代表者の見直し

年度末に、社長に「代表者の見直し」として、環境管理責任者から【表-5】の各情報をインプットし、同表に記載するアウトプットがありました。アウトプットのあった各事項は、2013年度活動に反映しています。

【表-5】代表者の見直し

インプット情報		
インプット事項	概要	管理責任者の提案等
システム運用に係る評価	環境への取組みの自己チェックでは、'07年の開始時195/524(37%)が、今年度末では379/492(77%)へと着実に改善する等、システムは有効に機能している。	1. 環境方針 現方針を堅持する。
環境目標・計画の達成状況 環境関連法規等の順守状況	本レポート該当項目記載どおり 本レポート該当項目記載どおり	2. 環境目標・計画 1) 電力リスクを低減するために、安全衛生には最大限の配慮をしつつ、節電を強力に進める。 2) 中期経営計画と連動して、当社の製品・技術による環境面での社会貢献を確実に推進する。
是正及び予防処置の状況	3か月連続して各月の目標未達項目の推進責任者には、是正処置指示書を発行し挽回に努めた。また全社的に各面でのリスクアセスメントを実施し、予防に努めた。	3. システムの各要素 ISO9001との類似システムについては統合化等を推進し、システムのスリム化及び運用の迅速化並びにリスクマネジメントへの反映を図る。また、外部機関との連携を強化する。
内部監査の結果	今年度もCSR監査の一環として、環境活動の重要性及び各自の役割についての認識をテーマに監査した結果、良好であることを確認した。	
周囲の変化の状況	原子力発電所の稼働停止に起因し、引き続き電力事情が逼迫。 大阪市の紙リサイクル強化される。	



代表者のアウトプット

1. 環境方針
現在の方針を継続する。
2. 環境目標・活動計画
1) 環境対応製品/技術の計画的開発・製品化の推進を強化。 2) 環境配慮設計の追求。
3. システムの各要素
1) ISO等の他活動との共通点は、統合し環境対応強化を図る。
2) 真の環境対応型企業として仕組の確立を目指す。

6. 環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

※東京営業所は全て該当せず

適用される法規制	適用される施設、毎年必要な報告等	本社・工場	南山田工場	滋賀工場
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、産業廃棄物管理票交付等状況報告書	○	○	○
騒音・振動規制法	ペンディングマシン、空気圧縮機、送風機、機械プレス等	○	○	該当せず
消防法	少量危険物取扱所、屋内貯蔵所、地下タンク貯蔵所	○	○	○
下水道法	酸による表面処理施設	○	○	該当せず
高圧ガス保安法	液化窒素貯槽、高圧ガス容器貯蔵所	○	○	該当せず
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則、粉じん障害防止規則に係る作業	○	○	該当せず
電気事業法	自家用電気工作物	○	○	○
PCB特別措置法	PCB含有コンデンサ(微量含有は環廃産発第040217005号による)	微量○	該当せず	○

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。